

東大和市子ども・子育て支援会議 第3回議事録

会 議 名	平成26年度 第3回 東大和市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	平成26年7月28日(月) 14:00～16:00
開 催 場 所	東大和市役所会議棟 第7・8会議室
委 員	(出席者)佐々木委員、網干委員、伊藤委員、寺山委員、水上委員、上田委員、坂本委員、片野委員、仲里委員、住吉委員 (欠席者)廣澤委員
事 務 局	榎本(子ども生活部長)、高橋(子育て支援課長)、宮鍋(保育課長)、中村(青少年課長)、井上(狭山保育園長)、渡邊(保育課保育・幼稚園係長)、恵良(保育課子ども・子育て支援担当主査)、妹尾(保育課保育・幼稚園係主事)
傍 聴 者	1名
会 議 次 第	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 (1)教育・保育等の量の見込みの確保策について (2)子ども・子育て支援事業計画の骨子案について (3)その他 ・次回日程について 4. 閉会
配 付 資 料	[事前配付] 資料1 教育・保育等の量の見込みの確保策 資料2 東大和市子ども・子育て支援事業計画(骨子案) [卓上配付] 参考資料 他市の基本方針等 委員提出資料 要望書
会議の結果及び主要な発言	
事務局 副会長	1. 教育・保育等の量の見込みの確保策について (資料1を説明) 「確認外幼稚園」という表現はやめてほしい。今回の制度の中でも幼稚園として残るものであるため、修正をお願いしたい。
会長	この数字は、「幼稚園」に持っていくとよい。その他に、意見はないか。 (特に意見なし)
事務局 会長 事務局	2. 子ども・子育て支援事業計画の骨子案について (資料2を説明) 第3章は事務局としてどのような構成にしたいと考えているか。 事務局として特段イメージ等は持っていないが、参考として早く進んでいる自治体を例示した。なお、形式として、1つは基本理念があった上で基本目標があり、1つは基本理念と文章となっている。
会長	第3章で基本理念等を述べた上で、第4章の施策の展開ということになるだろう。何かキャッチフレーズがあってもよいだろう。

副会長	ここで、どのようなことを入れたいかの話をした方が良いのではないかと。それを受けて市から提案してもらわないと、委員からそれぞれ、また提案するということになるだろう。
会長	子どもの権利条約もあるため、「子どもの最善の利益」という概念もあってよいのではないかと。
副会長	子どもたちが主体的に生きるということを入れておいた方がよい。子どもの権利という意味で、大切に保護されると同時に自分らしく生きられるように、保護者も含め大人がサポートするということが入れていきたい。具体的な内容は施策の内容になるため、このような形で協議していったらどうか。
会長	この部分は、自分たちの考えを反映させることができる一番のポイントである。今日の意見をベースに事務局でたたき台を作成して、次回に協議することになるだろう。
	(休憩 10 分)
会長	今後、8月下旬に事務局からのたたき台を協議し、9月中旬にもう一度、会議を行った上で9月の議会への報告を経て、パブリックコメントをかけることとなる。
副会長	男女共同の子育てを盛り込みたい。意識や仕事、ライフスタイルが変わってきて、重要になっていると思う。自分のライフスタイルに合わせて、短時間労働や育児休暇をうまく使いながら子育てのできる時間を作る必要がある。子育ての楽しさを共有し、子育てを通して地域や保育園・幼稚園と関わる中で、自ら子育てに関わっていくということも入れられないか。
会長	子ども・子育て支援と次世代育成では根拠法令が異なるといっても、重複する部分もあるため、それを把握した上で入れるのは大丈夫だろう。
委員	次世代育成行動計画の1～4の項目に対して、端的な説明を考えていた。これと同じ文章ではなくても、それぞれに入れることはできるのではないかと。長い文章だとなかなか読まないため、端的に書いた方が理解しやすいだろう。母親は単純な不安や疑問に感じていて、簡潔に書いて分かりやすくして、細かいことは施策の展開の中でやっていけばよい。次世代育成行動計画を参考にしながら、必要なものを入れ込んでいく方がよいと思う。
事務局	次世代育成行動計画は今年度までで、次世代育成支援法は10年間の延長となったが、計画は任意のため、個別で次世代育成行動計画を策定しようとはしていない。ただし、子ども・子育て支援法に引き継がれた部分はあるため、その部分に特化した方が分かりやすいだろう。なお、次世代育成計画は企業でも別個に作ることとなるため、次世代育成は置いておき、子ども・子育て支援法でやるべきことを挙げた方が分かりやすいだろう。
委員	分かりやすいものの方が理解しやすい。その上でキャッチフレーズを考え、次世代育成行動計画の文章も良いことが書いてあるため、これを凝縮してできればよいと思う。
副会長	簡潔な形で示すのが良いだろう。ただし、この部分で盛り込めないものもあるだろうから、そういったことは施策の展開において、細かいことを書く前に、3～4行程度、文章で書くのはどうか。一番最初に提示するのが第3章で、細かいことは施策の展開で述べるのが分かりやすいのではないかと。
会長	ニーズ調査の最後で、今後、東大和市で産み育てたいかという質問をしたが、それは大きなポイントであり、その辺もうまく使えないだろうか。
副会長	すべての子育て家庭が安心して子育てできるまち、子どもたちが主体的に生きる、又は自分の気持ちを表現することができる、地域が協働して子育てするまち、男女共同の子育てが

会長	できるまちの4つを入れたいと考えている。
副会長	子どもを尊重し、子どもが自己選択・自己決定できるように、大人が環境を整えるのが責務だろう。
副会長	大人が受け止めてくれる、じっくり話を聞いてくれる、地域の人たちが声をかけてくれるのが、子どもたちに安心感を与えるし、保護者が地域や専門家から声をかけてもらえることで安心する。保護者もそこで知り合えた保護者と話し、職場の協力や先生に声をかけてもらってまちづくりができ、子どもたちが育っていくことを書ければよい。
会長	親も子どもと一緒に育って親になるし、子どもが自己決定できるためにサポートできる社会になれば良い。
副会長	地域で育っていく、自分たちで何とか育てていく社会ができることが見い出せれば良い。
委員	次世代育成行動計画の文章はよくできている。最初の目標の一文も良く、東大和市はこうであるといったようなキャッチコピーがあればよい。教育・保育が主であるため、それをベースにして、それから外れる部分は除いても良いと思う。また、「郷土愛で育む 親子で学びあえるまち」という観点があつて良い。東大和市で育って、親として地域に愛情が生まれ、地域の活動に展開できれば良いと思う。
事務局	ニーズ調査の最後の質問では、未就学児の保護者は55%が思うとしているが、就学時の保護者は55%が思わないという結果になっており、この辺は徐々に解消していきたい。未就学児だけではなく、すべての子どものためということで意見をいただきたい。
委員	他自治体の「子どもたちがさまざま人と出会い、ふれあいことのできる多世代・異年齢交流を推進し」というのは重要だと考えている。色々な世界を見せるのは大切だと思う。
委員	自己肯定感というか、自分の存在を認めてくれる人、親であつたり友人であつたり、地域の人であつたり、そうした人が側にいるような社会が大事だろう。
委員	安心がとても重要だろう。子育て家庭が安心するためのサービスや施策が整っているという意味でも、安心というキーワードを入れていきたい。親が子どもを産み育てることが希望になれば良い。希望を持てるキャッチフレーズや、地域というキーワードも入れていきたい。親子で学び、ともに成長していける、ふれ合える機会があり、絆を深めていけるサービスがあれば良い。「子どもにとって良質な教育・保育の提供」も目標の1つとして掲げても良いと思う。
委員	子育てに安心できるまちなど、どれも欠けてはいけませんが、多く細かく挙げるよりは、いくつかにまとめて項目として掲げるのが良いだろう。育児がメインになりがちだが、保護者を育てる、子どもを大切に作る心の豊かさを保護者に求めるようなこともあればと考えている。また、就学児になると産み育てたいとする人の割合が下がるとあり、教育側に批判を受けているのではないかと感じているが、学校だけではなく、保護者と一緒にやっていかなければならないだろう。放課後子ども教室などにおける地域の支援も充実していかなければいけない。地域ぐるみで支えることが大事である。
会長	地域での見守りがうまく活用できれば良い。
委員	自分の力や経験を活かして子どもたちに教えたり見守ってあげたりすることに活用できれば良い。
委員	「誰もが希望する教育と保育を受けられるまち」を入れてもらえればと思う。

副会長
会長

3. その他

(参考資料・要望書を説明)

幼稚園の窮状を理解していただければと思う。要望書を受け取る。

次回は、8月29日の14時、次々回は9月17日の15時から行うこととする。

以上で会議を終了とする。